

社会福祉法人 宝塚いくせい会

令和 2 年度 事業計画書

令和 2 年度の宝塚いくせい会の運営は、障害福祉サービス事業として知的障害者の支援に特化した就労継続支援 A 型・B 型事業、短期入所事業及び日中一時支援事業のサービスを適切に実施します。また、就労事業の一環として介護サービス事業に基づく福祉用具の貸与や販売事業を実施します。

宝塚いくせい会では、職員一同、法人の基本理念に即した障害福祉サービスの提供に努めてまいります。

I 法人の基本理念

1 利用者の尊重

利用者の意思や人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供します。

2 サービスの質の向上

利用者本位のサービスを実現するため、業務の標準化を図るとともに、サービスの質向上の鍵を握る職員のレベルアップを業務を通じて実現していきます。

3 地域との連携

地域との交流の促進を図り、安心と信頼で結ばれる社会福祉施設、事業の運営を目指します。

4 健全経営の実現

無駄をなくし、効率化に努め、健全な経営を確立します。

5 責任と権限の明確化

組織として事業活動を実践しているという原点に立ち、職員各自の組織上の役割、権限、責任を明確にして、組織一体となって業務遂行にあたります。

6 働きやすい職場環境

誇りをもって働きやすい法令遵守の職場環境づくりに努めます。

II 法人の経営計画と事業計画

1 短期計画

(1) 就労継続支援（A 型・B 型）事業、短期入所事業及び日中一時支援事業を堅実かつ適切に運営します。

(2) 短期入所の利用契約者数が停滞し、支援員の確保が困難な状況下で、防災上の課題のある安倉ホームの建替えとその後の短期入所事業所の再編について、事業計画を策定します。

(3) 法人の運営基盤を強固なものとするため、組織の充実を図り、60歳超の職員を配置している部門においては、将来を見据えた職員の適性化に努めます。

2 中長期計画

- (1) 宝塚育成事業所とENJOYハウスは宝塚市からの借用施設(令和4年3月末期限、5年更新)であるが、当該施設が「宝塚市公共施設(建物施設)保有量最適化方針」の対象施設であることから、今後の施設の維持等については宝塚市と協議を進めながら実施します。
- (2) 需要に応じた新たな障害福祉サービス事業の展開について研究します。

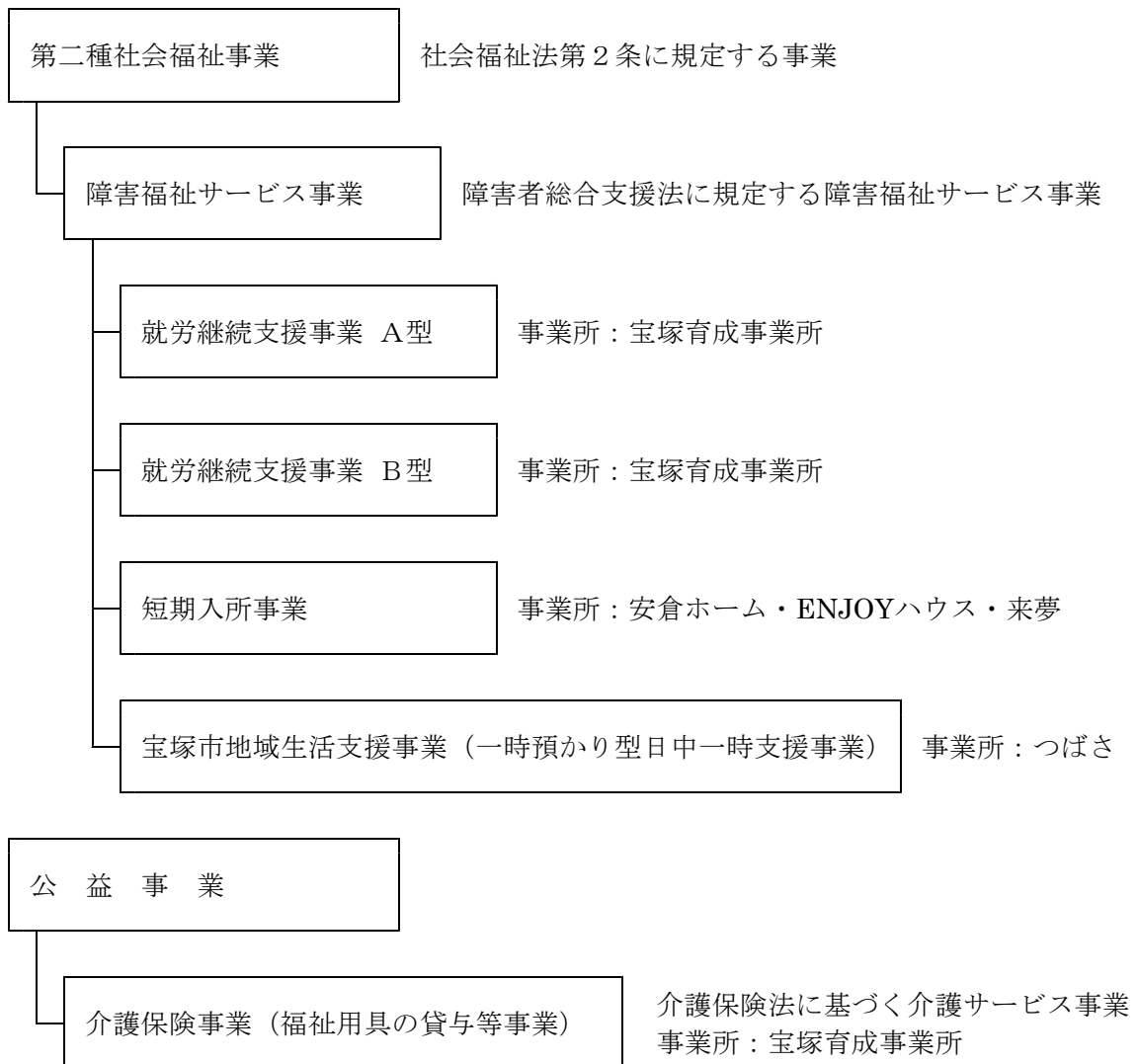
Ⅲ 資金収支予算の状況

上段：令和2年度 / 下段：令和元年度

区 分	収 入	支 出	収支差引等
事業活動によるもの	264,800,000 円	262,300,000 円	2,500,000 円
	256,413,000 円	253,962,000 円	2,451,000 円
施設整備等によるもの	0 円	2,430,000 円	△ 2,430,000 円
	1,440,000 円	8,286,000 円	△ 6,846,000 円
その他の活動によるもの	400,000 円	400,000 円	0 円
	400,000 円	400,000 円	0 円
計	265,200,000 円	265,130,000 円	70,000 円
	258,253,000 円	262,648,000 円	△ 4,395,000 円
前期末支払資金残高(予定額)			145,709,436 円
			150,104,436 円
当期末支払資金残高(予定額)			157,995,436 円
			145,709,436 円

IV 障害福祉サービス事業等の運営

法人が運営する事業の体系



1 宝塚育成事業所（多機能型就労継続支援A型・B型）

(1) 事業の概要

就労継続支援事業は、通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じてその知識や能力の向上のために必要な訓練を行う事業で、雇用契約を締結して利用する「A型」と、雇用契約を結ばないで利用する「B型」の2種類があります。また、当法人は、A型事業とB型事業を一体的に運営する、「多機能型」と位置付けられています。

① 定員及び利用者の状況

	令和2年度（計画）			
	定員	開設予定日	利用契約者数	年間延べ利用者見込数
就労継続支援A型	12人	240日	12人	2,880人
就労継続支援B型	15人	240日	15人	3,600人

② 訓練等給付費収入の予定額

	令和2年度（計画）	令和元年度	増減
就労継続支援A型	21,100,000円	19,800,000円	1,300,000円
就労継続支援B型	26,400,000円	24,600,000円	1,800,000円

③ 就労支援事業の実施事業

【A型の実施事業】

- 介護保険適用福祉用具貸与事業（契約件数 495件(3月現在)）、福祉用具販売事業
- 宝塚市公園維持管理業務、市民病院植栽管理業務の受託（A・B間での作業分担の明確化）
- 福祉用具の消毒作業の受託（A・B間での作業分担の明確化）

【B型の実施事業】

- 介護保険適用外福祉用具貸与事業（契約件数 616件(3月現在)）、福祉用具販売事業
- 宝塚市公園維持管理業務、市民病院植栽管理業務の受託（A・B間での作業分担の明確化）
- 福祉用具の消毒作業の受託（A・B間での作業分担の明確化）
- 軽作業の受託事業
- 就労A型事業からの福祉用具消毒作業の受託

④ 就労支援事業収支の予定額

		令和2年度（計画）	令和元年度	増 減
A型	就労支援事業収入	82,500,000 円	81,670,000 円	830,000 円
	就労支援事業支出 （うち、賃金）	82,500,000 円 (13,200,000 円)	81,670,000 円 (12,800,000 円)	830,000 円 (400,000 円)
B型	就労支援事業収入	20,600,000 円	18,130,000 円	2,470,000 円
	就労支援事業支出 （うち、工賃）	20,600,000 円 (8,500,000 円)	18,130,000 円 (7,300,000 円)	2,470,000 円 (1,200,000 円)
就労支援事業収入合計		103,100,000 円	99,800,000 円	3,300,000 円
就労支援事業支出合計		103,100,000 円	99,800,000 円	3,300,000 円

⑤ 職員の状況

	令和2年度（計画）
配置人員	12 (3) 管理者除く
管理者	1 (他事業と兼務)
サービス管理者	1 (生活支援員兼務)
生活支援員	5 (1)
職業指導員	4 (1)
事務員	2 (1)

※ ()は臨時職員数で、内数で表す。

(2) 収入の確保と利用者の対応について

就労支援事業のうち、特にB型事業の収入確保については、市内の障害者施設が連携して共同受注窓口を設置し、法人や組織の枠組を超えたつながりのなかで収入を確保していきます。

利用者の高齢化等の諸問題への対応については、障害分野と介護分野、医療分野と連携を図り、適切な対応に努めます。

2 ENJOYハウス、安倉ホーム、来夢（単独型短期入所施設）

(1) 事業の概要

短期入所事業は、利用者が自宅の事情で介護することが困難な場合に、ショートステイとして入浴、排せつ、食事等の必要な介護(支援)を提供するサービスです。

短期入所事業の運営には、別の福祉サービスと一体で運営する「併設型」や「空床型」がありますが、当法人の事業所は、短期入所専用の「単独型」事業所で、「安倉ホーム」、「ENJOYハウス」、「来夢」の三事業所を運営しています。

① 定員及び利用者等の状況

	定 員		令和2年度（計画）	
	男性	女性	開設予定日	年間延べ利用者見込数／利用率
安倉ホーム	4 人	4 人	240 日	1,340 人 / 69.8 %
ENJOYハウス	4 人	3 人	240 日	1,440 人 / 85.7 %
来 夢	4 人	—	240 日	840 人 / 87.5 %
計	12 人	7 人		3,620 人 / 79.4 %

※ 来夢に別枠で緊急受入枠(1人)がある。

② 介護給付費収入の予定額

	令和2年度（計画）	令和元年度	増 減
安倉ホーム	26,600,000 円	24,750,000 円	1,850,000 円
ENJOYハウス	27,900,000 円	27,850,000 円	50,000 円
来 夢	15,900,000 円	16,300,000 円	△ 400,000 円

③ 職員の状況

	令和2年度（計画）		
	安倉ホーム	ENJOYハウス	来夢
配置人員	5 (3)	6 (2)	3 (2)
管理者兼生活支援員	1	1	1
生活支援員	2 (1)	3 (1)	—
調理員	2 (2)	—	2 (2)
添乗員	—	2 (2)	—

※ ()は臨時職員数で、内数で表す。

(2) 安倉ホームの建替えと短期入所事業所の再編について

安倉ホームはスプリンクラー設備が未設置で、防災上の課題をかねてより認識しているところですが、今年度、建替えについて事業計画を策定します。

安倉ホームは平成8年に取得し、20年以上が経過している建物であることから、現在の建物にスプリンクラー設備は設置せず、消防法上のスプリンクラー設置指標である障害支援区分4以上の利用割合80%以上を下回る利用計画で施設を運用していたものです。

また、短期入所事業所の職員については人材不足が深刻な問題として常態化しており、支援員の高齢化問題と合わせ喫緊の課題となっています。

このような状況のなかで、今後法人が運営する短期入所事業のあり方について、事業所の再編も含めて安倉ホームの建替計画と合わせて計画を策定します。

3 つばさ&ミッキー（日中一時支援施設）

(1) 事業の概要

宝塚市の地域生活支援事業である日中の一時預かり事業で、平時は「つばさ」として、また、学校が休業となる春休み、夏休み、冬休みの期間中は「ミッキー」と称して運営しています。

① 定員及び利用者等の状況

	令和2年度（計画）			
	定員	開設予定日	延べ利用者見込数	延べ利用時間見込数
学齢児童（18歳未満）	15人	242日	330人	8,400時間
成人（18歳以上）		242日	380人	8,400時間
計	15人	242日	760人	16,800時間

② 宝塚市受託事業収入の予定額

	令和2年度（計画）	令和元年度	増減
つばさ&ミッキー	26,800,000円	26,500,000円	300,000円

③ 職員の状況

	令和2年度（計画）
配置人員	14（10）管理者除く
管理者	1（他事業と兼務）
生活支援員	13（10）

※（ ）は臨時職員数の概数で、内数で表す。

(2) 今後の課題等について

宝塚市は本事業の事務取扱要領を改変し、令和2年4月より新たな事務要領で事業を実施することとしていることから、事務の複雑化や事務作業量の増大が予測される。

V 職員に関する事項

1 職員の状況等

職員数

令和2年3月末

区 分	男性職員	女性職員	計
正 職 員	8 人	8 人	16 人
嘱託職員	4 人	2 人	6 人
臨時職員	3 人	7 人	10 人
計	15 人	17 人	32 人

※ 臨時職員は雇用契約を締結している職員数です。

配属状況

令和2年3月末

区 分	男性職員	女性職員	計
本部事務局	2 人	1 人	3 人
宝塚育成事業所	5 (1) 人	7 (2) 人	12 (3) 人
短期入所事業所	6 (2) 人	8 (5) 人	14 (7) 人
安倉ホーム	2 (1) 人	4 (2) 人	6 (3) 人
ENLOYハウス	3 (1) 人	2 (1) 人	5 (2) 人
来 夢	1 人	2 (2) 人	3 (2) 人
日中一時支援事業所	2 人	2 (1) 人	4 (1) 人
計	15 (3) 人	18 (8) 人	33 (11) 人

※ ()は臨時職員数で、内数で表す。

2 職員体制の課題と取組

- ① 60歳超の嘱託職員6人中、65歳超の職員が4人在職しているなかで、適正な職員の確保に努めます。
- ② 宝塚育成事業所生活支援員の男女間の比率を改善します。
- ③ 短期入所職員の確保が難しいなか、短期入所専従職員の負担が軽減できる勤務体制のあり方を構築します。
- ④ 日中一時支援事業所の臨時職員の確保に努めます。

3 職員研修の充実

- ① 職員の資質向上と、利用者の支援に有効な研修に参加できる環境づくりを目指します。
- ② 職員の支援力を高めるための研修を計画し、職員一人ひとりのスキルアップを目指します。
- ③ より適切な福祉サービスの提供が行えるよう、内部研修及び外部研修の充実を目指します。

VI 管理運営

1 理事会・評議員会等の運営

- ・ 定例理事会（5月） 前年度事業報告及び決算報告
次期評議員候補者の選出
- ・ 評議員選任・解任委員会（5月） 評議員候補者の選任
- ・ 定時評議員会（6月） 前年度事業報告及び決算の承認
- ・ 定例理事会（8、11、2月） 事業執行状況の報告等
- ・ 定例理事会（3月） 次年度事業計画及び予算審議
- ・ 臨時理事会（随時）

2 内部委員会等の運営

- ・ 運営委員会（原則、毎月）
- ・ 業務評価・改善委員会（原則、毎月）

VII 財務管理

1 経営情報の把握と業務の効率化

今年度も引き続き税理士との顧問契約を継続し、適切な財務管理を行います。

また、経営分析を通じて課題の把握とその改善策を明確にし、新たな事業の展開についてその方策を検討します。

2 情報の公開

法人情報については、「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」により開示します。

www.wam.go.jp/wamnet/zaihyoukaiji/

VI 苦情対応

苦情対応については、苦情対応規程に基づき、迅速な対応を図ります。

Ⅷ リスク管理

- 1 日常的なヒヤリハットの発生については、その原因を分析し、その後のより大きな事故につながることを未然に防ぐための措置を実践し、情報を職員間で共有します。
- 2 発生した事故については、その時の状況や事故対応の記録を確実にを行い、事故の再発防止のための方策を構築します。
- 3 リスクマネジメント研修を定期的実施し、日常のヒヤリハットの減少と安全で安心な利用者支援につながるよう努めます。
- 4 あらゆる事故の防止が利用者と職員の安全確保につながり、そのことが良質な福祉サービスの提供につながることを職員間で認識します。